

2016 年 8 月
JETRO ドバイ事務所作成

バーレーン経済の現状

- バーレーン経済は、石油価格の低迷期にあっても総じて極めて高い回復力を示している。この 1 年の世界的な石油価格下落と継続的な政情不安、ならびに高まる財政支出への圧力により、成長ペースは必然的にやや鈍化し、GDP 成長率は 2014 年の 4.5%から 2015 年は 2.9%に減少した。しかし経済の構造的な成長要因が強かったことで、非石油部門の成長率は 3.9%であった。これは主に多角化の勢いが継続したことと、大規模なパイプラインインフラの影響によるところが大きい。2014 年の下半期以降、非石油経済はバーレーンの経済成長をけん引してきた。一方で石油部門の経済成長への貢献は限定的である。
- EDB (Bahrain Economic Development Board/バーレーン経済開発委員会) は、今後の成長は非石油経済の高いレベルでの持続性と、地域政府と投資家の長期プロジェクトへの関与に左右されるとしている。非炭化水素部門は、建設、製造、観光、社会事業、人的サービスの貢献で 2016 年は 3.4%前後、2017 年は 3%前後を維持すると見られている。

バーレーン経済概要					
	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
実質 GDP 成長率 (%)	4.5%	2.9%	2.9%	2.5%	2.2%
非炭化水素部門	4.9%	3.9%	3.4%	3.0%	2.6%
炭化水素部門	3.0%	-0.9%	2.0%	0.5%	0.5%
名目 GDP 成長率 (%)	2.9%	-4.8%	4.8%	7.6%	5.6%
インフレ (CPI %)	2.8%	1.8%	3.8%	2.0%	2.0%
経常収支 (% GDP)	4.5%	-0.2%	-2.7%	0.0%	1.2%
財政バランス (% GDP)	-3.6%	-12.5%	-13.0%	-10.5%	-8.9%

※2016 年～2018 年は予測

出典：バーレーン経済開発委員会

- 経済成長は、経済成長計画「バーレーンビジョン 2030 (Bahrain Vision 2030)」にも左右される。バーレーンビジョン 2030 では大規模なインフラ開発を行い、EDB の国家経済戦略の下で経済を多様化および拡大することを目指している。
- バーレーンの成長は GCC (Gulf Cooperation Council/湾岸協力会議)、特にバーレーンの 20 倍の経済規模を持つサウジアラビアからのファンディングに大きく依存している。サウジアラビアとは全長 25 kmの海上橋キング・ファハド・コーズウェイによってつながれており、自家用車での往来も可能なほど近い関係にある。油価低迷による同国市場の混乱による影響もまた大きいものの、バーレーンの経済はサウジアラビアと比較して既に格段に多角化しており、金融部門は比較的強固で高い弾力性がある。
- 2011 年の民主化運動以降、サウジアラビアを含む 4 つのアラブ諸国はバーレーンの安定性

- を危惧し、100 億米ドルの支援を約束した。バーレーンの政治的重要性、比較的少ない政府の資産保有、大幅な赤字、多額の債務を考慮すると、今後も海外からの資金援助に依存すると見られる。
- バーレーンにはオープンなビジネス環境と質の高い労働力があり、急速に成長する GCC 市場への進出を目指す世界の投資家を引きつけてきた。国際連合貿易開発会議（UNCTAD / United Nations Conference on Trade and Development）の世界投資報告書によると、2014 年のバーレーンへの海外直接投資は総額 10 億米ドルで、対バーレーン直接投資残高は 188 億米ドルに達している。GCC 内では最も高く、世界平均をはるかに上回る額を維持しており、地域で最も友好的な経済の 1 つと称されるバーレーンの地位を裏付けている。バーレーンの事業コストは地域でも最低レベルであり、投資規制の枠組みは強固である。ヘリテージ財団（The Heritage Foundation）が発表した 2014 年経済自由度指数（2014 Index of Economic Freedom）によると、バーレーンの経済は地域で最も自由度が高い。これが成長を後押しし、海外投資家によるバーレーンでの事業の成功につながっている。
- バーレーンは最近、成長を加速させるために日本を含む 100 近い国に対する柔軟なビザ政策を導入し、出発前または到着時にビザをオンライン取得できるようにした。現在は 36 カ国が e-Visa 申請の対象だが、今後はさらに 60 カ国が到着時にビザを申請できるようになる。

大規模なパイプラインインフラのプロジェクトが進行中

- エネルギー部門の収益が落ち込む中、バーレーンは成長を促す新プロジェクトを進めている。MEED Projects は 2016 年 6 月中旬に、バーレーンのパイプラインプロジェクト全体の費用が 2015 年より 4.7%増加し 727 億米ドルになると予測している。このうち政府、GCC 開発基金、民間部門が実施している「戦略的に重要な」優先度の高いインフラプロジェクトである大型パイプラインは、約 320 億米ドルになると見られている。
- バーレーンの意欲的なインフラ構築と、投資計画を支援する GCC の 100 億米ドルの湾岸開発計画（Gulf Development Program）は、バーレーンの建設業界にとって大きな追い風となるであろう。これまで約 60 億米ドルの GCC 基金が割り振られ、約 37 億米ドルが入札の対象となった。住宅部門は基金のうち 35%を確保し、他にも電気・水道事業（22%）、空港拡張（14%）、道路（12%）などに配分された。
- バーレーンの建設業界は、以前から比較的オープンで参入しやすいことで知られており、世界銀行が 2014 年に発表した「ビジネスのしやすさ（Ease of Doing Business）」調査の「建設許可取得（dealing with construction permits）」部門では 185 カ国中 4 位である。同調査によると、バーレーンで民間の受託業者が建設許可を取得するには 11 の手続きを要し平均 60 日かかるが、OECD（Organisation for Economic Co-operation and Development / 経済協力開発機構）の平均は 11.9 の手続きを要し、149.5 日かかるとのことであった。

バーレーンの主要なインフラプロジェクト：

ここではバーレーンの最新かつ最大規模のインフラプロジェクトをいくつか紹介する。

- 輸送インフラ：

バーレーンは、特に隣国サウジアラビアとのつながりを重視してきた。なかでも近隣諸国に遅れを取っている航空インフラには、重点的な投資をしている。

o バーレーン国際空港拡張プロジェクト：

もっとも重要な案件は、バーレーン国際空港（BIA／Bahrain International Airport）の拡張および近代化であろう。11 億米ドルをかけて収容能力を高める拡張工事を行い、現在の年間乗客数 900 万人を 50%以上増やし 1400 万人にすることを目指す。このターミナルプロジェクトは今年、すでにアラブテック建設（Arabtec Construction）とトルコの TAV エアポーツが共同受注した。メンテナンス、修繕、ICT システム、航空交通管制棟などは未定である。プロジェクトの第 1 段階は 2019 年中頃までに完了予定であり、この時点までに既存のターミナルビルの大部分を解体し、その場所を 2020 年末までに終了予定の第 2 段階に活用する。

プロジェクト費用全体の約 70%を GCC 基金で賄う予定である。

o バーレーンの 2 つ目の空港建設：

さらに政府は、北部の海岸沖の人工島に 2 つ目の空港を建設する計画を発表した。

- 住宅も取り組みの大きな焦点：

手頃な価格で住宅を供給することを政府が推進しているため、多くの新プロジェクトが始動し、これが中期的な成長を押し上げると見られている。バーレーンは、今後 10 年以内に 40,000 戸の住宅を提供するという意欲的な計画を進めている。住宅省は新しい PPP（Public-private partnership／官民パートナーシップ）立ち上げを目指しており、国民の住宅購入を支援する社会的住宅融資計画（Social Housing Financing Scheme）を導入した。

- o 国有銀行のエスカン銀行（Eskan Bank）は 15,000～16,000 戸の住宅を建設するため、海外デベロッパーとの合弁事業（JV）設立を模索しており、GCC、トルコ、中国、韓国の候補先に話を持ちかけた。予定されている JV の下で、政府がプロジェクトの資産形成のために土地を割当て、デベロッパーが金融サービス会社とともに建設資金を供給する。JV は首都マナーマ南西のラムリー（Ramli）、アル＝マディナ・アル＝シャマリア（Al Madina al Shamaliya）などの政府所有地の開発や、より成熟した地域であるウンム・アル＝ハサン（Umm al Hassam）とイーサ・タウン（Isa Town）の再開発を担当する予定である。

- o バーレーン本島、マナーマ北東に隣接するバーレーン第二の島であるムハッラク島にはバーレーン国際空港が所在するほか、同島北東に人口造成島群ディヤール・アル＝ムハラク（Diyar al Muharraq）プロジェクトが進む。同プロジェクトでは 30 億米ド

ルを費やして高級複合地区マラッシー・アル＝バーレーン（**Marassi al Bahrain**）を開発し、2 年以内に入居者を受け入れる予定である。本プロジェクトの開発は、UAE アブダビを本拠地とするイーグルヒルズ・プロパティーズ（**Eagle Hills**）との合弁事業イーグルヒルズ・ディヤール（**Eagle Hills Diyar**）が担当している。プロジェクトの第 1 段階の費用は 12 億米ドルの予定で、480 戸のオーシャンフロントのマンション、ショッピングセンター、アドレス・ホテル&リゾート（**The Address Hotels and Resorts**）が建設する豪華ホテルなどが計画されている。

- o さらにディヤール・アル＝ムハラクプロジェクトのアル＝バレフ（**Al Bareh**）臨海開発が第 2 段階に入ったとの発表があった。アル＝バレフの住宅は主に次の 3 種類に分かれている。
 1. 高級ヴィラ専用のオーシャンフロント住宅区画
 2. ウォーターフロントの公園から徒歩圏内の住宅区画
 3. 高層ビルの建築指定地である幹線道路を見下ろす住宅投資区画
 アル＝バレフの区画は、あらゆる国籍の人を対象に自由保有権として販売している。
- o マナーマ（**Manama**）中央のバーレーン・フィナンシャルハーバー（**Bahrain Financial Harbour**）地区で行われている 6.5 億米ドルの高級共同住宅地ヴィラマール（**Villamar**）プロジェクトの建設作業は 2017 年までに終了予定。また同地区の多目的ランドマークとして 1.5 億米ドルの高級住宅・商店街ハーバー・ロー（**Harbour Row**）プロジェクトも同様に進行している。これらはイスラム投資銀行で同地区を本拠地とするガルフ・フィナンシャルハウス（**Gulf Finance House / GFH**）が出資している。
- o クウェートのクウェート・ファイナンスハウス（**Kuwait Finance House**）と同マバニー不動産（**Mabane Real Estate Company**）は 2016 年 2 月、アベニュー・バーレーン（**Avenues-Bahrain**）プロジェクトに対し、1 年間で 9,400 万米ドルの資金を提供するという覚書を締結した。2017 年内、マナーマの臨海ショッピングモールとしてアベニュー・モールオープン予定である。
- o 地場企業アルビラド不動産開発（**Albilad Real Estate Development**）のウォーター・ガーデンシティ（**Water Garden City**）プロジェクトでは、マナーマ（**Manama**）のシーフ（**Seef**）地区に 66 億米ドルをかけてウォーター・ガーデンシティを建設する。敷地は 220 万平方メートルの予定で、住宅地、ビーチパーク、マリーナ、学校、商業スペース、小売店、レジャー施設などが計画されている。2010 年に建設を開始し、2020 年までに完成予定である。
- o 地場投資銀行 **GBCORP**（**Global Banking Corporation**）のマルサ・アル＝シーフ（**Marsa Al Seef**）プロジェクトは、バーレーン北岸のウォーターフロント強化プロジェクトであり、敷地は約 242 万平方メートル。2018 年までに完了予定である。

- 電力部門インフラ：

電力の改善も、重要なインフラとして上位に挙がっている。

政府は 2014 年 1 月に、22 億米ドルをかけて電力施設を改善する計画を発表した。

- o 電力・水庁（EWA）は 2016 年 5 月に 7.5 億米ドルの電力網開発プロジェクトを開始した。建物とバーレーン国際空港から南のヒッド（Hidd）、マナーマ南西のウム・アル＝ハサン（Umm al Hassam）、バーレーン中部のリファー（Riffa）の 3 つの送電線の接続が計画されている。2017 年末までに完了予定である。
- o EWA は、1,500W のガス火力発電施設などが計画されているアル＝ドゥール（Al-Dur）
- 2 水・電力独立プロジェクトのコンサルタントの入札も受け付け、2019 年までに稼働を開始する予定である。建設は 2017 年に開始予定。
- o バーレーンは 2013 年、再生可能エネルギープロジェクトにより、電力を 5MW 追加することも発表している。プロジェクトには 5 億米ドルの廃棄物発電所計画などがあり、フランスの大手エンジニアリング企業 CNIM（Constructions Industrielles de la Méditerranée）がコンサルタント兼請負業者となる。

- 輸送：

輸送部門では、いくつかの重要プロジェクトが進行中である。

- o 予定されている、国のライトレール計画の実現可能調査が発表された。
- o 本島北岸沿いの、一連の道路と舗装道路からなる BNLR（Bahrain Northern Link Road／バーレーン北部接続道路）のエンジニアリングコンサルタント作業が開始予定で、サウジアラビアの舗装道路とつなげる計画である。主要道路は全長約 22.5km で、Manama 中心部の渋滞が大幅に解消される見込みである。

- 炭化水素とアルミニウムプロジェクト：

計画中、または進行中

- o バーレーン政府は、新規合弁事業の Bahrain LNG に液化天然ガス（LNG）の海上ターミナル建設を発注した。政府は、政府の石油・ガス部門投資を管理する石油ガス公社 NOGAholding を介して、PPP（Public-private partnership／官民パートナーシップ）である Bahrain LNG の株を 30%保有している。残りの 70%は、以下が所有する予定である。
 - ・バミューダのティーケイ LNG パートナース（Teekay LNG Partners）を含む企業団体（30%）
 - ・韓国のサムスン（Samsung）（20%）

・クウェートのガルフ・インベストメント（Gulf Investment Corporation）（20%）
 ガスターミナルは、2018 年 7 月から始まる 20 年契約に従って所有され、稼働を開始する予定であり、バーレーンの高まるガス需要に対応する。EIU によると、バーレーンのガス需要は 2011 年から 2014 年にかけて、毎年平均 2.5%以上増えるとしている。

- **Bapco**（Bahrain Petroleum Company／バーレーン石油）によるシトラ（Sitra）製油所の近代化プログラムは、2015 年 12 月にプロジェクト管理請負会社が任命されて以来、勢いをつけている。当製油所の昨年の生産量は能力を上回る 267,854 b/d に達しており、生産混合を調整する一方、近代化プログラムによって生産能力を 267,000 b/d から 360,000 b/d に拡大することを目指す。Bapco は、総額 50 億米ドルになると見られるエンジニアリング、調達、建設契約への入札企業を募集した。プロジェクトは 2020 年末までに、すべて完了予定である。また Bapco は 2016 年 5 月に、英国のエネルギー企業 Greenergy との合弁事業バーレーン・ガソリン・ブレンディング（Bahrain Gasoline Blending）の立ち上げも発表した。地域のガソリン調合のハブ拠点設立を目指している。
- **Banagas**（Bahrain National Gas Company／バーレーン国営ガス会社）は、ガス処理施設拡大のために 4 億米ドル以上起債することを計画している。
- 国営会社 Alba（Aluminium Bahrain／アルミニウム・バーレーン）のアルミニウム製錬所拡張：
 Alba は現在 6 つ目のポットライン（電解炉）のために、7 年で 7.5 億米ドルのシンジケートローンを銀行から調達している。全体的なプロジェクト費用は 35 億米ドルになると見られ、そのうち約 70%は、さまざまな借り入れ方式で調達する予定。主なエンジニアリング、調達、建設管理契約は発注が終わり、1,300MW の自家発電設備の建設プロジェクトは入札者の最終選考に入った。プロジェクトが完了すると、Alba の年産能力は 54 万トンから 150 万トンに拡大する。

バーレーンの上位プロジェクト		
プロジェクト名	プロジェクト費用 (単位：100 万米ドル)	完了予定
Albilad - Water Garden City	6,600	2020
BAPCO - Sitra 製油所の改修・拡張	5,000	2020
Alba - アルミニウム製錬所第 6 ライン	3,500	2019
Eagle Hills Diyar - Marassi al Bahrain 開発	3,000	2017
CBCORP Bahrain - Marsa Al Seef	2,500	2018
Arabtec Construction と TAV - バーレーン空港近代化	1,100	2020
Bahrain EWA - 送電網開発プロジェクト	750	2017
GPIC - Manama のアンモニア・尿素プラント	700	2019
NOGA - LNG 輸入ターミナル	651	2018
Gulf Holding Company - Villamar 住宅団地	650	2017

サウジアラビア東部の主なインフラプロジェクト：

サウジアラビアは、438 億米ドルを輸送、通信、水道、農業、その他の関連インフラに割り当てている。同国の建設分野は総 GDP の約 8% を占めており、中東最大の建設市場になっている。建設投資のうち約 67% は政府の直接投資で、建設分野の大型プロジェクトは今後、8000 億米ドルに達する予定である。

- 湾岸工業都市ジュバイル（Jubail）と紅海に面するマディーナ州ヤンブー（Yanbu）の電力・水道事業会社マラフィク（Marafiq）は、見積り費用 27 億米ドルに上る一連の大型プロジェクト実施に乗り出した。マラフィクは、ジュバイルに逆浸透システム（ROS / Reverse Osmosis System）を利用した淡水化施設を建設予定で、サウジアラムコ（Saudi Aramco）と米国のダウ・ケミカル（Dow Chemical）の合弁事業 SADARA Chemical Co., がジュバイルプロジェクト 2 として 2.29 億米ドルを負担する。マラフィクは、他にもジュバイルで次のようなプロジェクトを開始している。
 - ・ ROS を利用した淡水化施設（1 億米ドル）
 - ・ 送水ポンプ施設の拡大（3200 万米ドル）
 - ・ マタラフィーヤ（Matarafiyya）エリアの送水ポンプ施設の新規建設（2700 万米ドル）
 - ・ 購入選択権付賃貸（Rent-to-own）住宅プログラム（1.13 億米ドル）
 - ・ マラフィク本社プロジェクト（3800 万米ドル）
- サウジの化学メーカー SABIC（The Saudi Arabian Basic Industrial Corporation）：62 億米ドルの新プロジェクトを実施予定。プロジェクトには以下のものが含まれる。
 - ・ アル＝ジュバイル石油化学（Al-Jubail Petrochemical Company）（KEMYA）の工業用ゴムプロジェクト（32 億米ドル）
 - ・ 石油化学製品用の港湾停泊プロジェクト（3.51 億米ドル）
 - ・ アラビアン石油化学（Arabian Petrochemical Company / Petrochemya）のスチレン・ブタジエン・アクリルプロジェクト（6.07 億米ドル）
 - ・ サウジアラビアン肥料（Saudi Arabian Fertilizer Company / Safco）の拡張プロジェクト（5.4 億米ドル）
 - ・ 国営メタノール会社（National Methanol Company）（イブン＝シーナー / Ibn Sina）のプロジェクト（5.13 億米ドル）
 - ・ SABIC のジャルムーダ（Jalmouda）地区における従業員住宅プロジェクト（9.45 億米ドル）
- ジュバイル 2 プロジェクト / Jubail II project（800 億米ドル）：22 年間で大幅拡張を目指す工業プロジェクトであり、次の建設を予定している。工業施設 100 棟、800,000 立方メートルの淡水化施設、350,000 バレル / 日以上生産能力を持つ製油所、鉄道、道路、高速道路。全プロジェクトは 2024 年に完了予定である。

- サウジ・ランドブリッジ／**Saudi Landbridge** (70 億米ドル) :

紅海から湾岸へいたる鉄道は GCC の鉄道網接続にとって不可欠である。サウジ国営鉄道 (Saudi Railways Company／SAR) はランドブリッジ設計をイタリアの鉄道エンジニアリング会社イタルフェル (Italferr) に 3700 万米ドルで発注した。ランドブリッジはリヤド (Riyadh) からジェッダ (Jeddah) までの 950km と、もう 1 路線のダンマーン (Dammam) からジュバイルまでの 115km が含まれる。現在は船で 5～7 日間かかるジェッダとダンマーン間の輸送時間が、貨物列車により 18 時間に短縮され、年間輸送能力は 800 万トンになる。

バーレーンのインフラレポート
2016 年 8 月作成

日本貿易振興機構 (ジェトロ) ものづくり産業部 環境・インフラ課
〒107-6006 東京都港区赤坂1-12-32
Tel. 03-3582-5542